

2023年3月期 第3四半期決算 連結業績概要

2023年2月7日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
佐瀬 克也

決算サマリー

2023年3月期第3四半期 業績概要

- 売上高は790億円(前四半期比8%減)。コンデンサは、通信機器向け、自動車向けは増加したが、情報機器向けなどが減少したため、同12%減収。
- 営業利益は65億円(同61%減)。需要減速による販売数量減少や当社の在庫水準適正化に向けた在庫削減等の影響で減益。
- 電子機器の生産台数の減少や電子部品の在庫調整、一部地域におけるロックダウンの影響などにより、売上高、営業利益ともに11月時点の想定を下回った。

2023年3月期 業績予想

- 11月に発表した通期業績予想を下方修正。
- 売上高は3,150億円(前期比10%減)、営業利益は310億円(同55%減)を予想。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

2

2023年3月期第3四半期 業績概要

第3四半期は第2四半期に対して減収減益となり、売上高は8%減の790億円となりました。コンデンサは、通信機器向けや自動車向けは増加したものの、情報機器向けなどが低調だったため、12%の減収となりました。

営業利益は65億円でした。需要の減速による販売数量の減少や当社の在庫削減などの影響で61%の減益となりました。

各市場で生じている電子機器の生産台数の減少や電子部品の在庫調整、また、一部地域で実施されたロックダウンの影響などにより、売上高、営業利益ともに11月時点の想定を下回りました。

2023年3月期 業績予想

第3四半期の実績と今後の需要予測などに基づき、11月に発表した通期業績予想を下方修正しました。売上高は前期から10%減の3,150億円を、営業利益は前期比55%減の310億円を計画しています。

第3四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2023年3月期 第2四半期		2023年3月期 第3四半期		増減	
売上高	86,272	100.0%	79,032	100.0%	△7,240	△8.4%
営業利益	16,475	19.1%	6,462	8.2%	△10,012	△60.8%
経常利益	18,355	21.3%	2,572	3.3%	△15,782	△86.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	12,643	14.7%	1,972	2.5%	△10,670	△84.4%
対米ドル期中平均レート	135.33円		144.27円		8.94円円安	
為替変動による影響額	売上高 +33億円、営業利益 +28億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,111		3,289		177	5.7%
設備投資額	10,602		15,738		5,136	48.4%
減価償却費	8,468		9,089		620	7.3%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

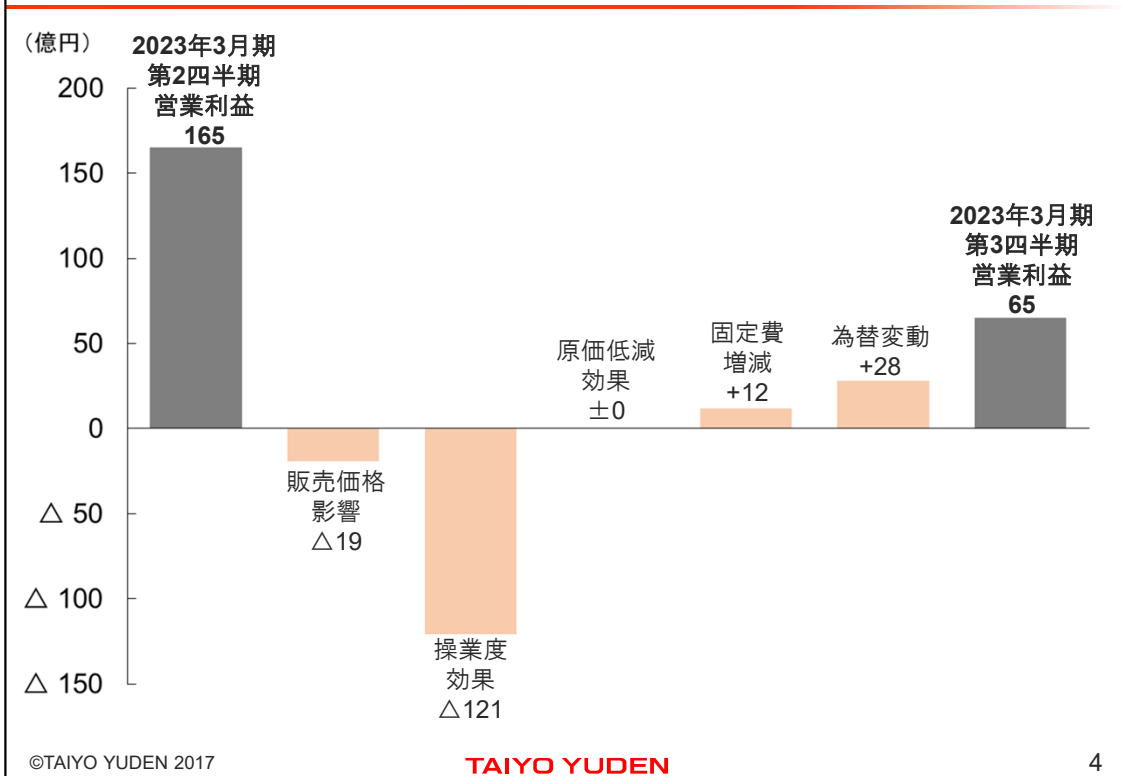
3

2023年3月期第3四半期の業績は、
売上高790億円、営業利益65億円となりました。
期末の為替レートが1米ドル132円台と
前四半期末の144円台に比べて円高になったため、
営業外費用として43億円の為替差損が発生し、経常利益は26億円でした。
親会社株主に帰属する当期純利益は20億円となりました。

期中平均の為替レートは1米ドル144円で、
前四半期に対して9円円安でした。
これにより、売上高に対しプラス33億円、
営業利益に対してプラス28億円の影響がありました。

研究開発費は33億円で、前四半期から2億円増加しました。
設備投資額は、群馬県にある八幡原工場に
MLCCの新材料棟が完成したことから
51億円増加し、157億円となりました。
減価償却費は6億円増加して91億円でした。

第3四半期 営業利益増減要因(前四半期比)



営業利益が前四半期に対して減益となった主な要因は、操業度効果です。第3四半期は、需要減速による販売数量の減少や当社が在庫水準適正化に向けて在庫を削減したことなどにより、121億円の減益要因となりました。なお、操業度効果には、販売数量増減や棚卸資産の増減のほかミックス改善などが含まれています。12月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで9月末から11億円減少しました。

その他の減益要因として、19億円の販売価格影響がありました。

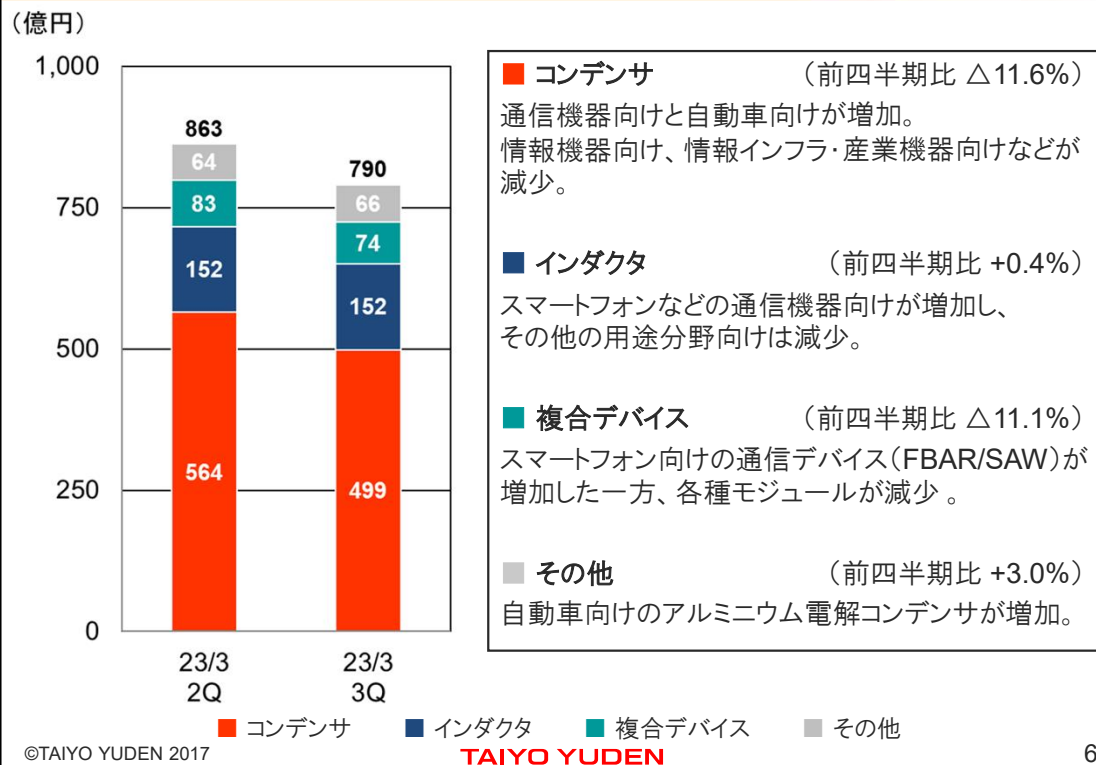
一方、増益要因として、円安による為替影響が28億円ありました。また、物流費や人件費などを抑制し、固定費が12億円減少しました。

これらの結果、営業利益は第2四半期から100億円減少し、65億円となりました。

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2023年3月期 第2四半期		2023年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	56,438	65.4%	49,867	63.1%	△6,570	△11.6%
インダクタ	15,156	17.6%	15,212	19.2%	55	0.4%
複合デバイス	8,276	9.6%	7,358	9.3%	△918	△11.1%
その他	6,400	7.4%	6,594	8.3%	193	3.0%
合計	86,272	100.0%	79,032	100.0%	△7,240	△8.4%

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)



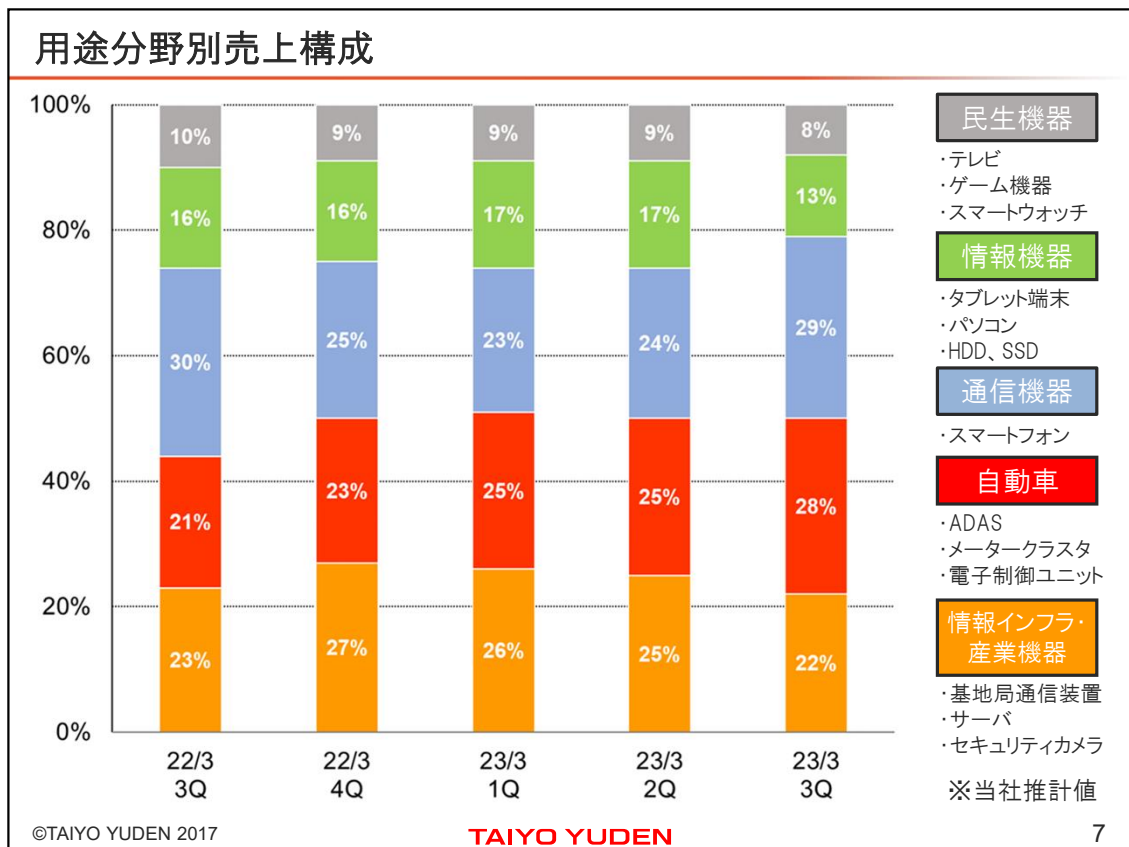
6

コンデンサの売上高は、前四半期比12%減の499億円でした。
スマートフォンなどの通信機器向けや、
電子化・電装化が続く自動車向けの売上は増加しましたが、
ノートPCやメモリなどの情報機器向けや
基地局通信装置などの情報インフラ・産業機器向けの売上が減少しました。

インダクタの売上高は、前四半期とほぼ同額の152億円となりました。
スマートフォンに使用されるメタル系パワーインダクタが伸びたことで
通信機器向けが増加しましたが、それ以外の用途は減少しました。

複合デバイスの売上高は、前四半期比11%減の74億円でした。
スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)は増加しましたが、
各種モジュールが減少しました。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、約70%でした。

その他は、子会社であるエルナーの自動車向けアルミニウム電解コンデンサが
売上を伸ばし、前四半期比3%増の66億円となりました。



用途分野別の売上構成比は、
 季節的な需要期を迎えたスマートフォンなどの通信機器向けが29%となり、
 前四半期から5ポイント上昇しました。
 自動車向けも堅調に売上を伸ばし、3ポイント上昇の28%となりました。

一方、サーバや基地局通信装置などを含む情報インフラ・産業機器向けは
 前四半期から3ポイント減少し22%、
 ノートPCやタブレット端末などの情報機器向けは4ポイント減少し13%となりました。

ゲームやスマートウォッチなどの民生機器向けは前四半期から大きな変化はなく、
 8%となりました。

2023年3月期 連結業績予想

2023年3月期 連結業績予想(前回予想比)

百万円	上期実績	前回予想		今回予想	
		下期	通期	下期	通期
売上高	168,013	173,987	342,000	146,987	315,000
営業利益	29,618	12,382	42,000	1,382	31,000
経常利益	35,559	12,441	48,000	△3,059	32,500
親会社株主に 帰属する当期純利益	24,880	8,620	33,500	△4,880	20,000
対米ドル期中平均レート	129.89円	143.00円	136.44円	137.13円	133.51円
研究開発費	6,224	7,776	14,000	6,776	13,000
設備投資額	20,366	39,634	60,000	29,634	50,000
減価償却費	16,325	19,675	36,000	18,675	35,000

・ 11月に発表した業績予想を下方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

2023年3月期の通期業績予想を、
11月に発表したものから下方修正しました。

売上高は3,150億円、営業利益310億円、経常利益325億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は200億円を予想しています。

設備投資額の予想は、従来の600億円から500億円に変更いたしました。
設備部品のリードタイム長期化や新型コロナウイルス感染症などの影響に
よるものです。

これに伴い、減価償却費を360億円から350億円に減額しました。
また、研究開発費も従来の140億円から130億円に見直しました。

なお、能力増強計画は変更しておりません。
今後の競争力向上に必要な研究開発活動や
コンデンサを中心とした能力拡大は計画通り進めています。

2023年3月期 連結業績予想(前期比)

百万円	2022年3月期		2023年3月期 予想		増減	
売上高	349,636	100.0%	315,000	100.0%	△34,636	△9.9%
営業利益	68,218	19.5%	31,000	9.8%	△37,218	△54.6%
経常利益	72,191	20.6%	32,500	10.3%	△39,691	△55.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	54,361	15.5%	20,000	6.3%	△34,361	△63.2%
対米ドル期中平均レート	111.56円		133.51円		21.95円円安	
研究開発費	13,099		13,000		△99	△0.8%
設備投資額	34,023		50,000		15,977	47.0%
減価償却費	31,287		35,000		3,713	11.9%

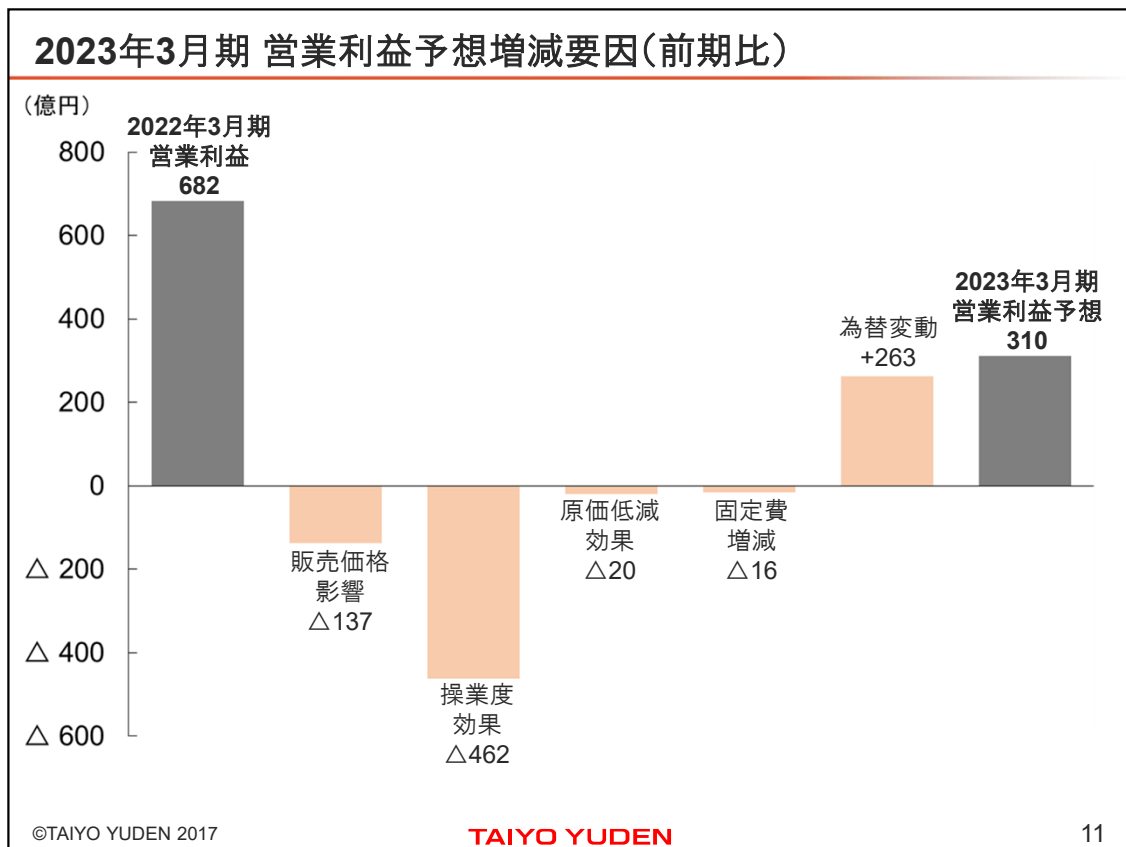
・ 11月に発表した業績予想を下方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

10

前期比では、売上高が10%の減収となり、
各段階利益は50%以上の減益となる見込みです。



今期の主な減益要因は、操業度効果462億円と販売価格影響137億円です。電子部品の需要環境悪化に伴い、今期は販売数量が減少する見通しです。加えて、一部のアイテムでは値下がりペースも前期に比べてやや加速する見込みです。

なお、第4四半期も棚卸資産の削減を予定しており、3月末の水準は、為替など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで、12月末に対して70～80億円減少する見込みです。

前期3月末に対しては、65～75億円程度上回る水準となる予定です。

また、原材料高騰による原価低減効果マイナス20億円や固定費の増加16億円も減益要因となる見込みです。

円安による為替影響263億円の増益効果はあるものの、営業利益は前期に対して372億円減少し、310億円となる見込みです。

2023年3月期 製品別売上高予想(前回予想比)

百万円	上期実績	前回予想		今回予想	
		下期	通期	下期	通期
コンデンサ	111,021	114,979	226,000	93,979	205,000
インダクタ	26,905	29,095	56,000	25,095	52,000
複合デバイス	17,436	15,564	33,000	14,564	32,000
その他	12,649	14,351	27,000	13,351	26,000
合計	168,013	173,987	342,000	146,987	315,000

通期の製品別売上高予想は、
コンデンサが2,050億円、インダクタは520億円、
複合デバイスは320億円、その他は260億円で
いずれも11月時点の予想から下方修正しました。

2023年3月期 製品別売上高予想(前期比)

百万円	2022年3月期		2023年3月期 予想		増減	
コンデンサ	230,383	65.9%	205,000	65.1%	△25,383	△11.0%
インダクタ	48,925	14.0%	52,000	16.5%	3,075	6.3%
複合デバイス	48,799	14.0%	32,000	10.2%	△16,799	△34.4%
その他	21,527	6.2%	26,000	8.3%	4,473	20.8%
合計	349,636	100.0%	315,000	100.0%	△34,636	△9.9%

前期比では、コンデンサが11%減、複合デバイスは34%減ですが、
メタル系材料を使った商品が好調なインダクタは6%、
自動車向けアルミニウム電解コンデンサの需要拡大が続くその他は
21%の増収となる計画です。
全社では10%の減収を見込んでいます。

第4四半期 製品別売上高予想

百万円	2023年3月期 第3四半期	2023年3月期 第4四半期予想 (前四半期比増減)
コンデンサ	49,867	△12%
インダクタ	15,212	△35%
複合デバイス	7,358	△2%
その他	6,594	+2%
合計	79,032	△14%
対米ドル期中平均レート	144.27円	(前提) 130.00円

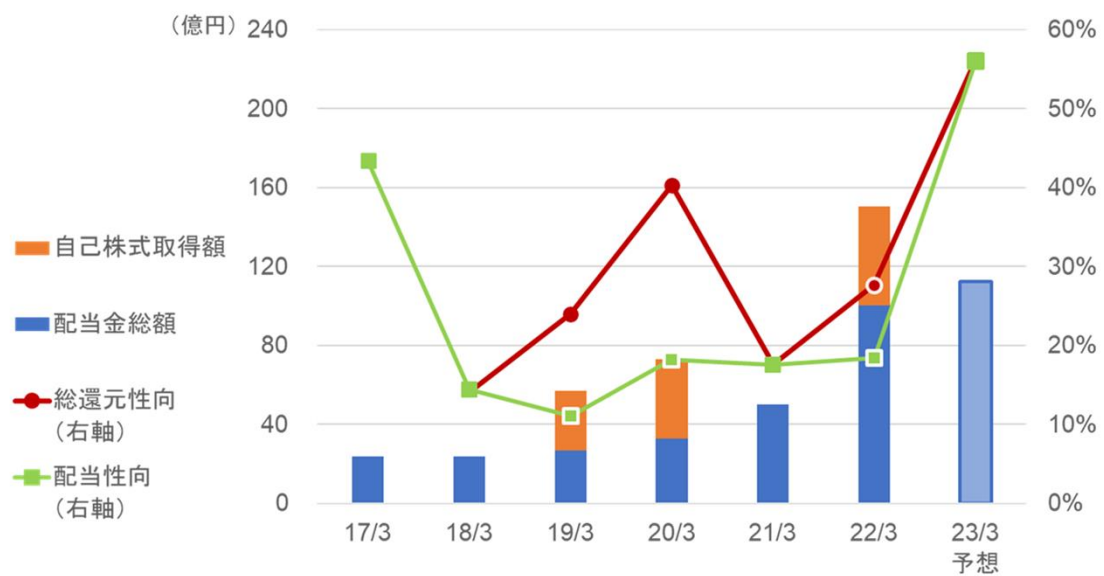
第4四半期の製品別売上高予想は、この表のとおりです。

コンデンサは、第3四半期に対して12%減少する見込みです。
第3四半期同様、パソコンやスマートフォンなどを中心に生産台数の減少や電子部品の在庫調整が継続すると考えられることから、電子部品の需要環境は11月時点の想定より悪化することが見込まれます。

インダクタについては、スマートフォン市場の季節的な需要減少の影響もあり、前四半期比で35%の減収となる見通しです。
また、複合デバイスは2%減少、その他は2%増加すると予想しています。

足元では、各機器の需要動向や原材料費等のコスト増など、予断を許さない状況が続くものと見込まれます。
しかしながら、自動車の電子化・電動化、データセンターなどの情報インフラ拡充といった、技術進化を背景とした電子部品の需要拡大トレンドに対する中期的な見方に変更はありません。
今後も、太陽誘電の高い技術力を活かした高付加価値商品の開発と生産・販売拡大に注力してまいります。

株主還元



1株当たり年間配当金(円)	20	20	21	26	40	80	90
1株当たり当期純利益(円)	46.08	138.80	189.93	143.04	227.99	433.46	160.50

安定的な配当性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

15

配当は期初予想から変更なく、1株当たり年間90円を予定しています。

補足資料

国際情勢、新型コロナウイルス感染症等の影響

販売

新型コロナウイルス感染症対策として実施された一部地域でのロックダウンの影響を受け、第1四半期、第3四半期の出荷が停滞。

調達

調達コストの上昇や調達リードタイムの長期化が見られるものの、必要な材料や部材の確保には支障がない見込み。

物流

一部で物流費の上昇や物流リードタイムの長期化などの影響が継続。代替便や代替ルートによる輸送などで対応。

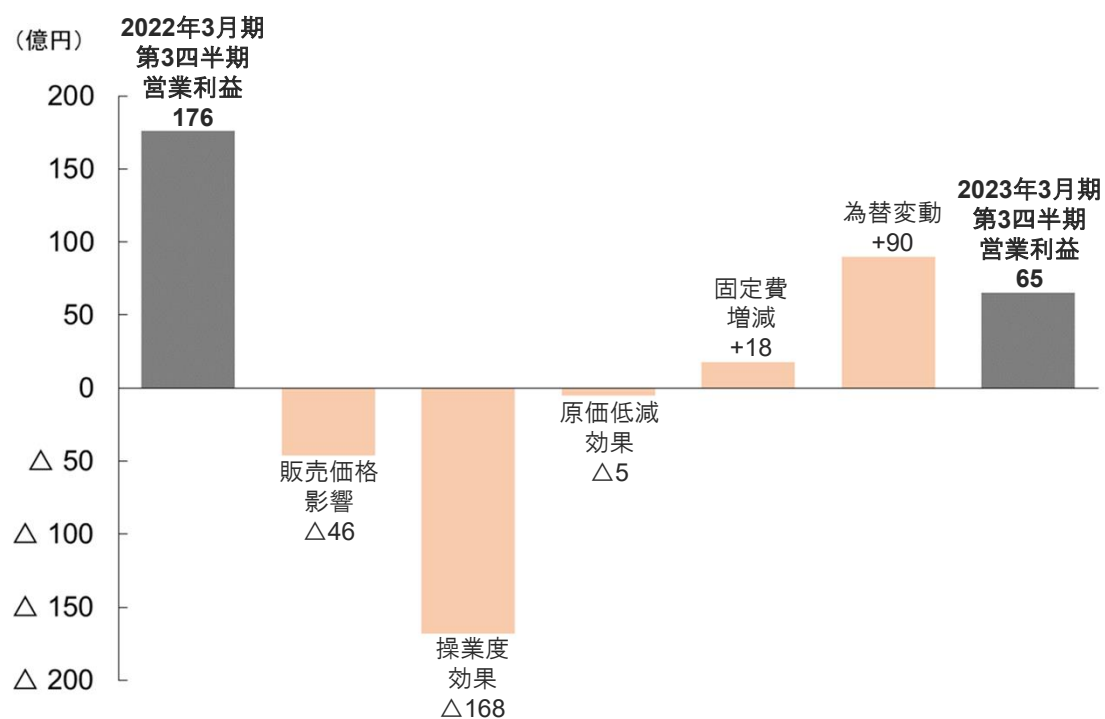
生産

国内外全ての生産拠点が通常稼働中。

第3四半期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2022年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期		増減	
売上高	89,840	100.0%	79,032	100.0%	△10,807	△12.0%
営業利益	17,643	19.6%	6,462	8.2%	△11,181	△63.4%
経常利益	18,390	20.5%	2,572	3.3%	△15,817	△86.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	13,410	14.9%	1,972	2.5%	△11,437	△85.3%
対米ドル期中平均レート	112.48円		144.27円		31.79円円安	
為替変動による影響額	売上高 +125億円、営業利益 +90億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,397		3,289		△107	△3.2%
設備投資額	8,112		15,738		7,625	94.0%
減価償却費	8,015		9,089		1,074	13.4%

第3四半期 営業利益増減要因(前年同期比)



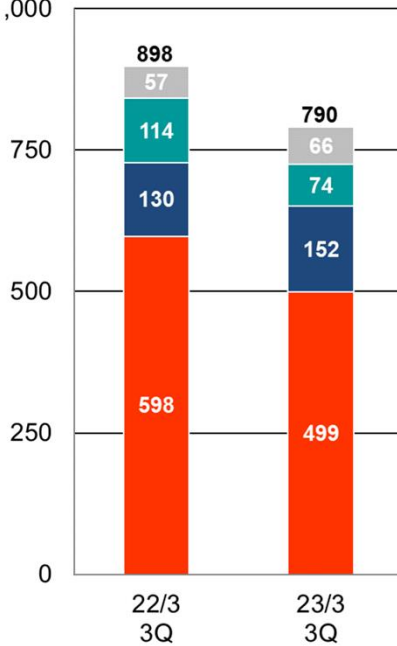
第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2022年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	59,787	66.5%	49,867	63.1%	△9,919	△16.6%
インダクタ	12,957	14.4%	15,212	19.2%	2,255	17.4%
複合デバイス	11,351	12.6%	7,358	9.3%	△3,993	△35.2%
その他	5,743	6.4%	6,594	8.3%	850	14.8%
合計	89,840	100.0%	79,032	100.0%	△10,807	△12.0%

第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)

1,000



■ **コンデンサ** (前年同期比 $\Delta 16.6\%$)

自動車向けが売上を伸ばしたものの、その他の用途分野向けで売上が減少。

■ **インダクタ** (前年同期比 $+17.4\%$)

スマートフォンなどの通信機器向けや自動車向けを中心に幅広い用途分野で売上が拡大。

■ **複合デバイス** (前年同期比 $\Delta 35.2\%$)

通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールともに減少。

■ **その他** (前年同期比 $+14.8\%$)

自動車向けのアルミニウム電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ

■ インダクタ

■ 複合デバイス

■ その他

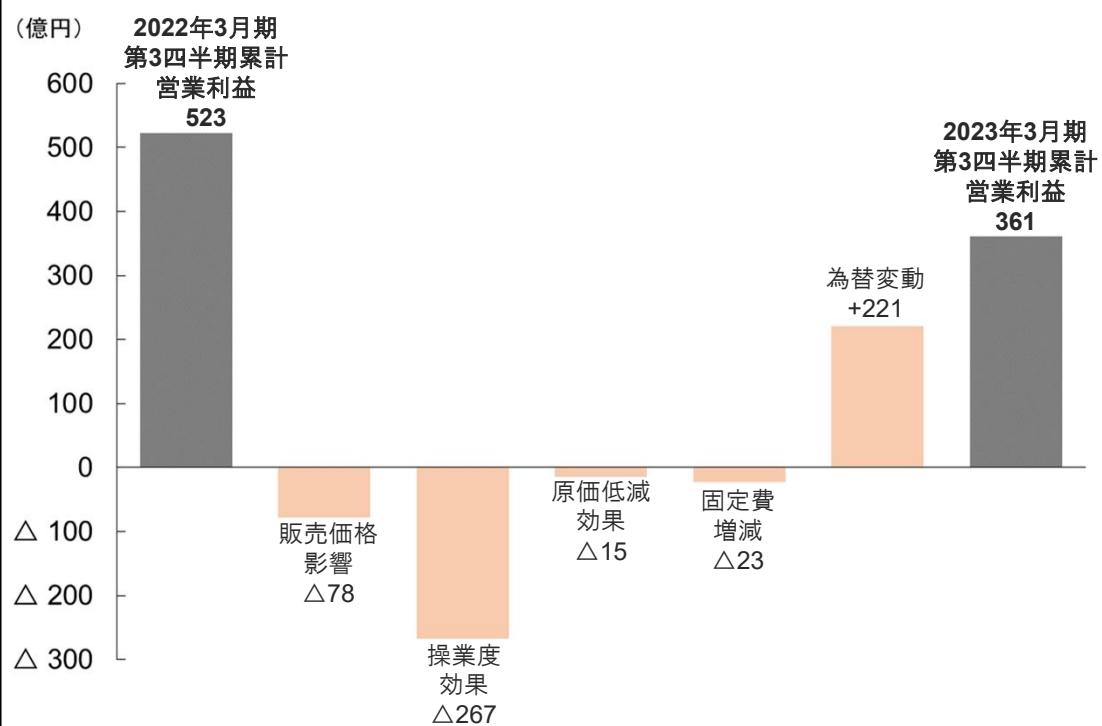
©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

第3四半期累計 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2022年3月期 第3四半期累計		2023年3月期 第3四半期累計		増減	
売上高	262,510	100.0%	247,046	100.0%	△15,464	△5.9%
営業利益	52,299	19.9%	36,080	14.6%	△16,218	△31.0%
経常利益	53,934	20.5%	38,132	15.4%	△15,802	△29.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	41,859	15.9%	26,853	10.9%	△15,006	△35.8%
対米ドル期中平均レート	110.53円		134.68円		24.15円円安	
為替変動による影響額	売上高 +317億円、営業利益 +221億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	9,755		9,513		△242	△2.5%
設備投資額	24,784		36,104		11,319	45.7%
減価償却費	22,987		25,414		2,426	10.6%

第3四半期累計 営業利益増減要因(前年同期比)

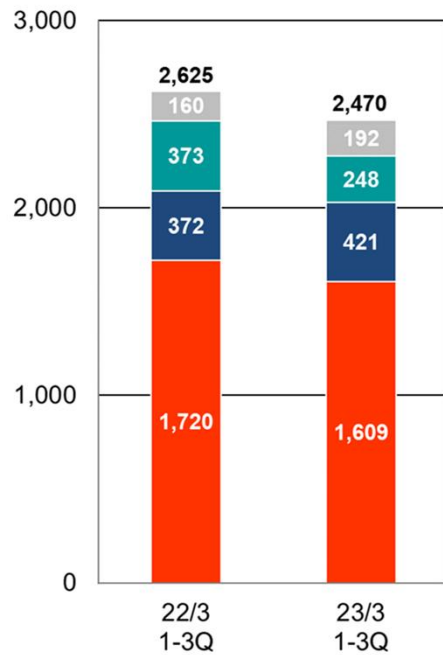


第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2022年3月期 第3四半期累計		2023年3月期 第3四半期累計		増減	
コンデンサ	172,031	65.5%	160,889	65.1%	△11,142	△6.5%
インダクタ	37,207	14.2%	42,118	17.0%	4,910	13.2%
複合デバイス	37,288	14.2%	24,794	10.0%	△12,494	△33.5%
その他	15,982	6.1%	19,243	7.8%	3,260	20.4%
合計	262,510	100.0%	247,046	100.0%	△15,464	△5.9%

第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比 △6.5%)

自動車向けと情報インフラ・産業機器向けは増加したが、スマートフォンなどの通信機器向けなどが減少。

■ **インダクタ** (前年同期比 +13.2%)

スマートフォンなどの通信機器向けを中心に幅広い用途分野向けで売上が拡大。

■ **複合デバイス** (前年同期比 △33.5%)

通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールともに減少。

■ **その他** (前年同期比 +20.4%)

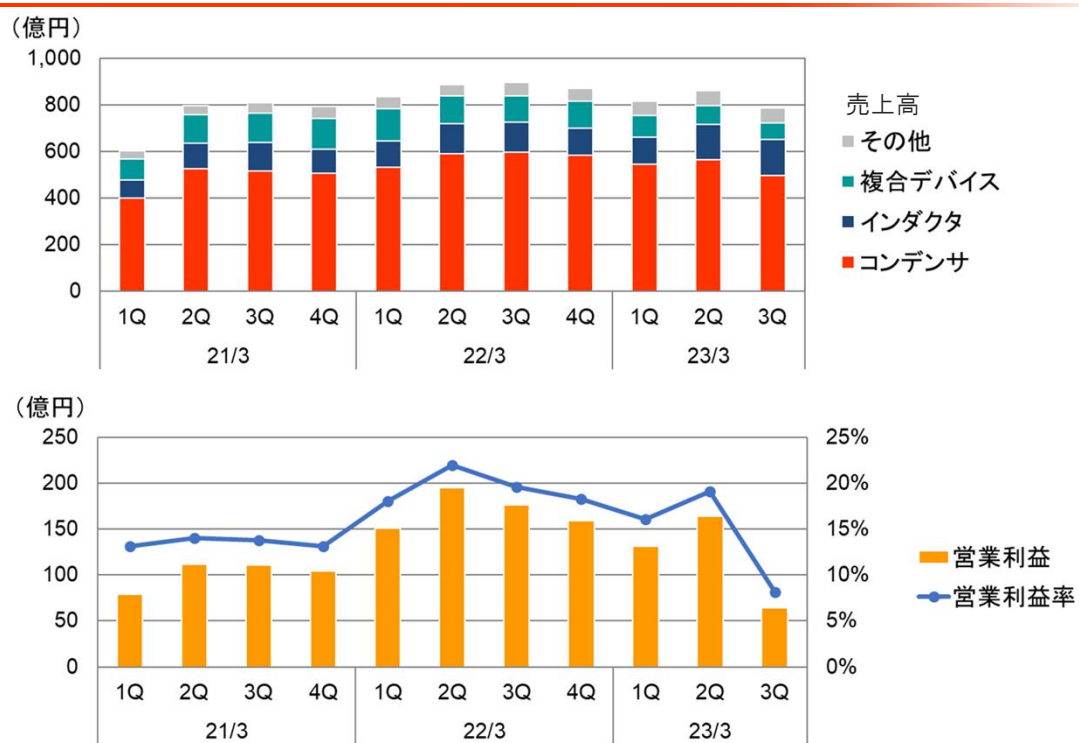
自動車向けのアルミニウム電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

連結業績推移(四半期)

百万円	2021年3月期				2022年3月期				2023年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	60,493	79,728	81,226	79,471	83,836	88,833	89,840	87,125	81,740	86,272	79,032
コンデンサ	40,075	52,596	51,895	50,630	53,209	59,035	59,787	58,352	54,583	56,438	49,867
インダクタ	7,928	10,903	12,230	10,501	11,386	12,863	12,957	11,717	11,748	15,156	15,212
複合デバイス	9,075	12,330	12,311	13,213	13,977	11,959	11,351	11,510	9,159	8,276	7,358
その他	3,413	3,899	4,788	5,125	5,263	4,975	5,743	5,545	6,248	6,400	6,594
営業利益	7,923	11,203	11,199	10,440	15,147	19,508	17,643	15,919	13,142	16,475	6,462
経常利益	7,371	10,812	11,422	11,641	15,174	20,370	18,390	18,256	17,204	18,355	2,572
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,541	6,900	8,383	8,789	12,969	15,479	13,410	12,502	12,236	12,643	1,972
対米ドル 期中平均レート	107.61 円	106.82 円	105.15 円	104.31 円	109.00 円	110.10 円	112.48 円	114.66 円	124.45 円	135.33 円	144.27 円

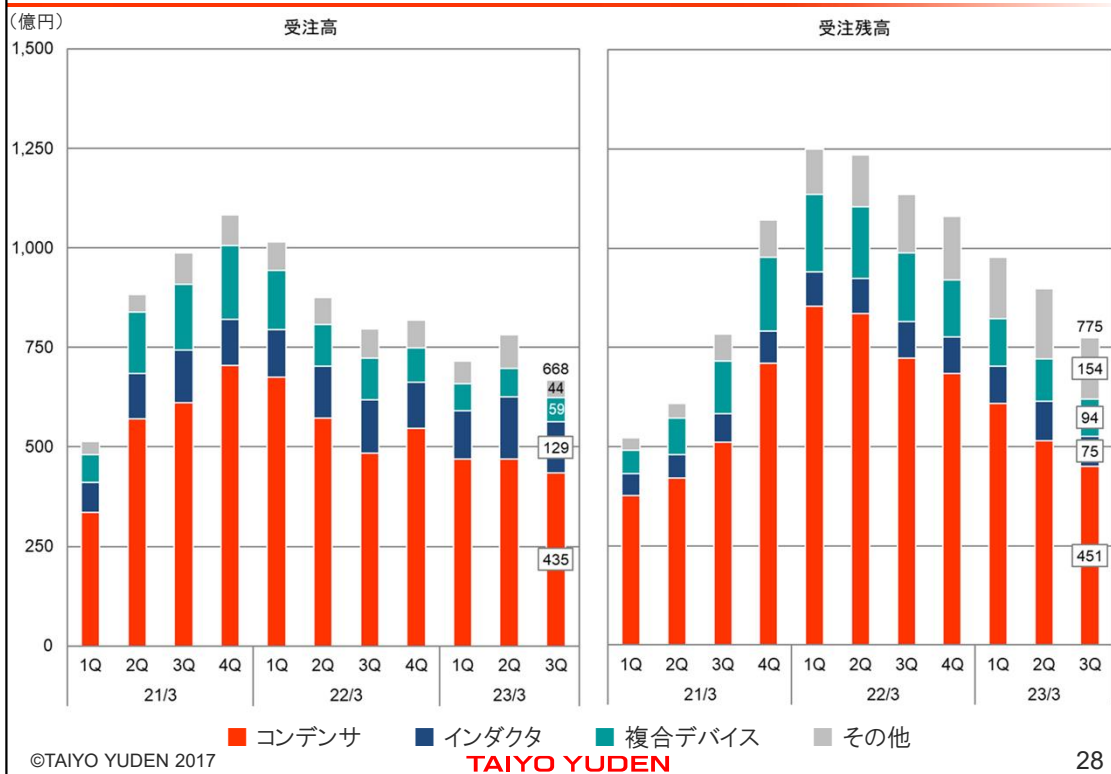
連結業績推移(四半期)



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

受注高・受注残高推移(四半期)



当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN